

おおつら 議会だより

No. 174

2024年2月5日発行
発行 大槌町議会

主な内容

- 中学生が議会を傍聴・・・3
- ここが聞きたい！一般質問・・・6～14
- より良い議会だよりを目指して・・・15

大槌の自然と共に生きる
▶ 関連記事 16ページ

年頭のあいさつ

町議会を代表いたしまして、新年の御挨拶を申し上げます。

まずもって、令和6年1月1日(月)に発生した石川県能登地方を震源とする地震(令和6年能登半島地震)により、被害に遭われた皆さまに、心よりお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。一日も早い、復旧・復興をお祈り申し上げます。

昨年は、5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行し、各種イベントや各種団体の活動など、コロナ禍以前の賑わいを取り戻してきました。

しかしながら、ロシアによるウクライナ侵攻は、燃料価格や物価の高騰など、町民の皆様のご日常生活に大きな影響を与えており、町民の皆様にとって先の見えない不安を感じる1年であったと思います。一刻も早い終結を願っております。

さて、本年は、「第9次大槌町総合計画」の後期基本計画の策定に取り組んでおり、今後の町政発展に向けた方針を決定し、実行する重要な年となります。当町は少子高齢化による人口減少、復興事業の収束による町民所得の減少、農林水産業をはじめとした就業人口の減少など多くの課題を抱えております。

議会におきましても、「議会は町民の代表である」という自覚と使命感を持って、町民の皆様との意見交換や個々の意見収集により、安心安全で住みよいまちづくりに努め、町民の皆様の意見や要望を町政に反映し、信頼される議会になるよう努めてまいります。

そして、新型コロナウイルス感染症、物価高騰などの課題を克服し、子どもから高齢者の皆様まで町民一人ひとりが安全に、安心して、より豊かに暮らせるよう、議論を尽くしながら、町的意思決定機関としての役割を果たしてまいりますので、皆さまの更なる御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が新たな災害のない穏やかで幸多き一年となりますよう御祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



小松 則明 議長

令和5年12月定例会の概要

12月定例会議案 ピックアップ

◇議案—*

◎条例の制定・改正
▽大槌町空家等対策の推進に関する条例の制定：
空家等対策の推進に関する特別措置法(平成26年法律第127号)に基づき、空家等に関する対策を総合的かつ計画的に推進するため必要な事項を定める

ことにより、生活環境の保全及び空家等の活用の促進を図るため、条例を制定するもの。

▽大槌町課室設置条例の一部を改正する条例：こども家庭センターの設置等に伴い、健康福祉課を2課体制に再編すること、適切な事務分掌と人員配置を行い、住民サービスの向上を図るため、所要の改正を行うもの。

令和5年12月定例会は、12月8日から14日までの7日間の会期で開催されました。今期定例会には、大槌町空家等対策の推進に関する条例の制定、大槌町課室設置条例の一部を改正する条例のほか、5年度の各会計の補正予算など、報告1件、議案17件が提案されました。
一般質問には8議員が登壇し、町当局の姿勢や施策をただしました。

議会の動き

5日・議会運営委員会
8日・12月定例会(〜14日)
14日・合同常任委員会
21日・議会全員協議会
26日・令和5年12月金石大槌地区行政事務組合議会臨時会(釜石市)
20日・令和5年度東部町村議長会議員研修会・交流会(山田町)

議案の「こ」がポイント!

「班長制度」から「課長補佐・係長制度」への組織改編の導入へ
町は、近年不適切な事務処理が多くみられることを鑑み、現在の「班長制度」から、事務事業を重層的に管理・指導ができる組織体制として「課長補佐・係長制度」を導入し、令和6年4月1日から組織再編に伴う新組織でスタート予定です。
組織の見直しにあたっては、現在の「班長制度」を評価するとともに、震災後の町役

場の職員体制の現状などを踏まえつつ、多様化する新たな行政ニーズにも対応可能な重層的な組織とすることで、管理指導能力の高い強固な組織の構築を目指します。
令和6年度の主な変更内容としては、現在の健康福祉課を2課に分離し、体制を整えます。新しい課室名と分掌事務は、次のとおりです。

課室名	分掌事務
健康福祉課	(1) 社会福祉に関する事項
	(2) 保健衛生及び子育て支援に関する事項
長寿社会課	(1) 老人の福祉に関する事項
	(2) 地域包括支援センターに関する事項

◎予算

▽令和5年度大槌町一般会計補正予算(第7号)を定めること：令和5年岩手県人事委員会勧告に伴う人件費の補正、ふるさと納税寄附金の補正等の計上により補正し、歳入歳出予算に5億9,338万7千円を追加し、予算の総額を121億4,164万2千円とするもの。

(全員賛成・原案可決)

▽令和5年度大槌町介護保険特別会計補正予算(第3号)

(全員賛成・原案可決)

▽令和5年度大槌町水道事業会計補正予算(第2号)

(全員賛成・原案可決)

◎その他

▽財産の処分について：東日本大震災津波により建設した災害公営住宅を、東日本大震災復興特別区域法に基づき譲渡するもの。

(全員賛成・原案可決)

中学生が議会を傍聴！

去る令和5年12月12日、吉里吉里学園中学部8年生と9年生18名の生徒の皆さんが、社会見学の一環として、議場において本会議を傍聴されました。

当日は一般質問の1日目で、登壇した芳賀潤議員と町当局との質疑応答の様子を熱心に見学しておりました。生徒たちは少し緊張した面持ちで、議場での発言者の声に耳を傾け、真剣にメモを取っていました。

自分たちの身近な問題が、町議会でどのようにして議論されているのかを見て、感じて、知ることができたのではないのでしょうか。今回の傍聴をきっかけに、少しでも町政に興味をもっていただければと思います。

私たち議員も、次代を担う若者に傍聴いただいたことで、町政の一翼を担う町議会として、より良い大槌町を未来へつなぐ思いを深めたところです。町が抱えるさまざまな課題について、広い視野と先を見据えた議論を重ねることで、若者たちに確実にバトンタッチできるよう、町議会として全力で取り組んでまいります。



熱心に傍聴する生徒の皆さん

令和5年12月定例会 審議結果一覧

議案番号等	議 案 等	審議結果
報告第14号	損害賠償額の専決処分の報告について 大槌学園での授業中の物損事故による損害賠償事件について専決処分するもの。	—
議案第67号	大槌町空家等対策の推進に関する条例の制定について 空家等対策の推進に関する特別措置法(平成26年法律第127号)に基づき、空家等に関する対策を総合的かつ計画的に推進するため必要な事項を定めることにより、生活環境の保全及び空家等の活用を促すため、条例を制定するもの。	可決 (全員賛成)
議案第68号	一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について 令和5年の岩手県人事委員会の勧告に鑑み、一般職の職員の給料月額及び期末勤勉手当の支給割合の改定並びに令和6年度の組織改編に係る役職の新設に伴い所要の改正を行うもの。	
議案第69号	大槌町議会の議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例について 諸般の情勢に鑑み、大槌町議会の議員の期末手当の支給割合を改定するもの。	
議案第70号	町長、副町長及び教育長の給与に関する条例の一部を改正する条例について 諸般の情勢に鑑み、町長、副町長及び教育長の期末手当の支給割合を改定するもの。	
議案第71号	大槌町一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例について 令和5年の岩手県人事委員会の勧告に鑑み、任期付職員の給料月額及び期末手当の支給割合を改定するもの。	
議案第72号	大槌町会計年度任用職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例について 令和5年の岩手県人事委員会の勧告に鑑み、会計年度任用職員の期末手当の支給割合を改定するほか、会計年度任用職員に対し勤勉手当を支給するため改定するもの。	
議案第73号	大槌町新型コロナウイルス感染症により生じた事態に対処するための特殊勤務手当の支給に関する条例を廃止する条例について 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成10年法律第114号)における新型コロナウイルス感染症の位置づけが変更されたことに伴い、当該条例を廃止するもの。	
議案第74号	大槌町課室設置条例の一部を改正する条例について こども家庭センターの設置等に伴い、健康福祉課を2課体制に再編することで、適切な事務分掌と人員配置を行い、住民サービスの向上を図るため、所要の改正を行うもの。	

定例会・臨時会審議結果一覧

令和5年12月定例会 審議結果一覧

議案番号等	議 案 等	審議結果
議案第75号	<p>大槌町町税条例の一部を改正する条例について</p> <p>「全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律(令和5年法律第31号)が令和5年5月19日に、「全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う関係政令の整備に関する政令(令和5年政令第243号)」が令和5年7月20日にそれぞれ公布され、これに伴い地方税法及び地方税法施行令の一部が改正され、国民健康保険税について、国民健康保険被保険者の産前産後に係る所得割額及び被保険者均等割額を減額する制度が創設されたため、所要の改正を行うもの。</p>	可決 (全員賛成)
議案第76号	<p>大槌町手数料条例の一部を改正する条例について</p> <p>戸籍法の一部を改正する法律(令和元年法律第17号)附則第1条第5号に掲げる規定の施行等に伴う地方公共団体の手数料の標準に関する政令(平成12年政令第16号)の改正に伴い、所要の改正を行うもの。</p>	
議案第77号	<p>大槌町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について</p> <p>特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設の運営に関する基準(平成26年内閣府令第39号)等の一部改正に伴い、所要の改正を行うもの。</p>	
議案第78号	<p>大槌町特定公共賃貸住宅条例の一部を改正する条例について</p> <p>「特定優良賃貸住宅の供給の促進に関する法律施行規則(平成5年建設省令第16号)」の改正に伴う所要の改正及び、管理開始後20年間を限度としていた家賃減額について、社会情勢等を鑑み、特に必要と認める場合には、当該期間を経過後においても家賃減額を行うことができるよう、所要の改正を行うもの。</p>	
議案第79号	<p>大槌都市計画事業震災復興土地画整理事業施行条例を廃止する条例について</p> <p>大槌都市計画事業震災復興土地画整理事業の完了に伴い、当該事業実施に係る条例を廃止するもの。</p>	
議案第80号	<p>財産の処分について</p> <p>東日本大震災津波により建設した災害公営住宅を、東日本大震災復興特別区域法に基づき譲渡するもの。</p>	
議案第81号	<p>令和5年度大槌町一般会計補正予算(第7号)を定めることについて</p> <p>令和5年岩手県人事委員会勧告に伴う人件費の補正、ふるさと納税寄附金の補正等の計上により補正し、歳入歳出予算に5億9,338万7千円を追加し、予算の総額を121億4,164万2千円とするもの。</p>	
議案第82号	<p>令和5年度大槌町介護保険特別会計補正予算(第3号)を定めることについて</p> <p>令和5年岩手県人事委員会勧告に伴う人件費の補正、介護制度改定に伴うシステム改修の計上により補正し、歳入歳出予算に191万2千円を追加し、予算の総額を16億9,517万4千円とするもの。</p>	
議案第83号	<p>令和5年度大槌町水道事業会計補正予算(第2号)を定めることについて</p> <p>岩手県人事委員会勧告に伴う人件費の補正、配水施設整備事業に係る企業債等の計上に伴い増額補正するもの。</p>	

～町政を問う～

一般質問に8議員が登壇

令和5年12月定例会の一般質問は12月12日～13日に行われ、8議員が登壇し、活発な議論が展開されました。大槌町では、一人60分以内の制限時間で質問を行いますが、本紙面の都合により要約していますので、ぜひ議場に足を運んでいただき傍聴してください。12月定例会の会議録は、2月下旬(予定)に町のホームページに掲載されます。

質問議員(質問順)	質問事項	掲載頁
1 山崎 充 議員	①おおつち地場産業活性化センター(安渡研究棟)について ②大槌町津波避難計画について	P7
2 芳賀 潤 議員	①仮称・鎮魂の森の正式名称について ②義務教育環境について ③役場職員の労務管理について ④有害鳥獣対策について	P8
3 臼澤良一 議員	①第9次大槌町総合計画の進捗状況と課題について ②人口減少による財政面への影響について ③地球温暖化防止対策について	P9
4 佐々木大作 議員	①大槌町の文化や芸術に関する振興と観光の促進について	P10
5 澤山美恵子 議員	①津波での車避難について ②震災伝承について	P11
6 東梅康悦 議員	①上下水道事業について ②第1次産業(農業・漁業)の支援について	P12
7 阿部俊作 議員	①鳥獣被害対策について ②通学路の街灯について ③歴史・文化について	P13
8 菊池忠彦 議員	①地域防災計画について ②地域おこし協力隊について ③公用車のEV(電気自動車)導入について	P14

下記QRコード、または、7P～14P議員の顔写真の下にあるQRコードから、一般質問の録画画像(YouTube)が視聴できますので、ぜひご利用ください。



大槌町議会チャンネル
QRコード



YouTubeに配信している画像イメージ

最大クラス大津波想定の大津波避難計画は万全か

新たな工夫を凝らし全町的な取組を目指す



やま ぎき みつる
山 崎 充 議員



【問】11月に実施した大槌町津波避難訓練の参加人数と車避難の訓練参加台数は。

【答】(平野町長) 1,280名の御参加をいただいた。そのうち車にて避難訓練に参加された台数は、金沢地区体育館は25台、リサイクルセンター隣仮設住宅跡地は11台であった。



大槌学園での町長訓示の様子

【問】県が公表した当町の想定被害は。

【答】(平野町長) 県が昨年9月に公表した岩手県地震・津波被害想定調査報告書によると、人的被害の予測結果は、当町に最も大きな被害を与える東北地方太平洋沖地震モデルにおいて、280人とされている。

【問】当町の災害対策本部の設置場所は。

【答】(平野町長) 設置場所は役場総務課執務室内としているが、役場庁舎の最大浸水想定は6・9mとなっており、



防災ヘリ救助訓練の見学の様子

津波警報及び大津波警報が発表された場合は、中央公民館に災害対策本部を設置する。

【問】発災後の職員の災害対策本部への参集計画は。

【答】(平野町長) 津波注意報が発表された場合は、全管理職と避難所開設職員が参集、津波警報及び大津波警報発表された場合は、全職員が参集対象となる。なお、津波警報以上では、津波到達予定時刻の15分前までに本部に來られる職員は、本部へ避難・参集することとしている。

【問】防災士の育成実績と今後の計画は。

【答】(平野町長) 毎年5名程度に防災士養成講座に参加していたしており、講座及び受験費用を補助することで資格取得者を増やす取組を行っている。

【問】震災直後の町内の情報収集にドローンが有効だと考えるが、ドローン部隊の創設について町の見解を伺う。

【答】(平野町長) 災害対策本部及び避難所運営の必要職員人員を鑑みるとドローン部隊の創設は難しいと考えている。しかしながら釜石大槌地区消防本部ではドローンを保有しており、ドローン調査における連携を進めていく。

【問】想定被害に対する仮設住宅の想定建設戸数及び建設場所の選定状況は。

【答】(平野町長) 浸水想定区域外の町有地を選定することとしているが、不足する分については、災害の様相および規模を見極めたうえで、被災後の状況を鑑みながら、仮設住宅を建設することを考えている。



はが じゅん
芳賀 潤 議員



仮称「鎮魂の森」の正式名称(愛称)は

公募等の手法を含め検討を進める

仮称・鎮魂の森の正式名称について

【問】大槌町文化交流センターの愛称は公募で「おしやつち」と命名した経緯がある。「鎮魂の森」はこれまで様々な議論がなされ、設計に反映されて来たと思う。正式名称(愛称)については、「鎮魂の森」と言うだけではなく、その持つ意味を十分に検討し、公募したほうが良いと考えるが、当局の見解は。

【答】(平野町長)
町では、平成30年8月に(仮称)鎮魂の森基本計画を策定しており、名称については、この計画

が進んだ後に、場所の性格を踏まえて正式に名称を決定することとしている。

議員御指摘のとおり、現時点の正式名称については、仮称として、ることから、基本構想の理念の意味を念頭に置き、決定したいと考えている。また、愛称については、公募等の手法を含め検討を進めていく。



(仮称) 鎮魂の森整備工事概要平面図

義務教育環境について

【問】特別支援学級の児童生徒数の推移と配置教員数は。

【答】(平野町長)
特別支援学級の児童生徒数は、令和3年度は18名であったが、昨年度は23名、本年度は28名であり、近年増加傾向にある。来年度も同様の傾向になると予想される。

配置教員数は、特別支援学級数と同数となる。特別支援学級のクラス数は、令和3年度が4学級、昨年度が6学級、今年度が6学級で児童生徒数が増えているが、配置教員数はあまり増えていないので、教員の負担は年々大きくなっている。

【問】不登校など、諸課題を抱える児童生徒数の推移は。

【答】(平野町長)

震災以前の不登校出現率は、県内で最も多い市町村の1つであり、震災直後の平成23年度は小学校で0・69%、中学校で6%程度であったが、震災後、こころのサポート体制の構築ときめ細やかな支援の継続により、令和元年度は小学校で0・62%、中学校で2%まで減少させることができた。

しかし、令和3年度から急激に増加し、昨年度は、小学校で2・9%、中学校で9%と全国平均を上回っている。

【問】スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー

の現状は。

【答】(平野町長)

県からエリア型スクールカウンセラーが派遣されており、吉里吉里学園小学部、中学部は年各16回、大槌学園は年46回、1回あたり6時間配置されている。スクールソーシャルワーカーは、県派遣が1名、町雇用が1名である。県派遣のスクールソーシャルワーカーは、各学園に年17回、1回あたり6時間、町雇用のスクールソーシャルワーカーは、毎日フルタイムで学校・家庭・教育関係支援施設との連携力を入れている。

役場組織改革、専門家に委託すべき

町自ら立て直しを図るのが第一と考える



議員 白澤良一



職員の研修について

【問】第三者委員会に「病理」とまで指摘されたが、町独自の研修プログラムが必要と思うが見解は。

【答】（藤原総務課長）岩手県の研修協議会でやっている。

【問】不祥事撲滅のため、組織改革の専門家に委託または雇用すべきではないか。

【答】（藤原総務課長）まずは町自ら立て直しを図るのが第一と考える。

【問】「病理」を治すことを最優先に考え、総合計

画に取り組みべきと考えるが見解は。

【答】（菊池副町長）来年度以降、後期総合計画の重要な位置づけにしながら取り組んでいく。

震災伝承プラットフォーム構築事業について

【問】教育・研修旅行者の受入者数の2,353人は全て無償か。

【答】（平野町長）民間団体の受け入れもあり、全て無償ではない。

【問】語り部の「伝える事の弊害」とは何か。



旧役場庁舎跡地の現状

【答】（平野町長）町民からどんな印象を抱かれているのか、震災を経験した方が話す際の負担になっていることを示している。

人口減少による財政面への影響

【問】人口減少で地方交付税減額も見込まれるが、今後の財政見通しは。

【答】（平野町長）昨年度決算で標準財政規模の2.4倍を超える規模となっており、歳入不足は基金を取り崩し補っている状況である。

【問】現時点での基金残高は。

【答】（太田企画財政課長）基金残高は全体で15億8,072万円である。

【問】毎年の基金取り崩し額は。

【答】（太田企画財政課長）令和3年度で約4億7,992万円。令和4年度で約3億4,544万円である。

【問】当町の人手不足の現状は。

【答】（平野町長）釜石・大槌地区の9月の有効求人倍率は1.04倍となっている。製造業や介護、観光関連業界などで労働力確保に課題がある。

【答】（平野町長）現在策定中の環境基本計画などに基づき推進していく。

【問】町の民有林の杉の人工林は1,535㍍4,605トンのCO2を吸収していると試算している。グリーンカーボンニュートラルを推進すべきだが見解は。

【答】（小笠原町民課長）森林資源で全て吸収するのは無理である。生活、産業、交通等から出るCO2を削減することが大事と考える。



適切に管理されているスギの民有林



さ さ き だ い さ く
佐々木 大作 議員



町の文化・芸術の振興と観光促進は

魅力発信イベントを企画・実施する

大槌町の文化や芸術に関する振興と観光の促進について

【問】「透明標本」展の開催経緯は。

【答】（平野町長）
地域活性化起業人が企画した事業であり、「透明標本」作家の富田氏と面識があることから、当町での透明標本展開催を依頼したところ、快諾いただき開催に至ったもので、3日間の開催期間中に県内外から約1,000名の方にご来場いただきました。遠くは、青森、仙台、東京からも透明標本展のために、大槌町に来町されたと伺っている。

【問】次年度以降、町外から大槌町へ人を呼び込む計画予定は。

【答】（平野町長）
本年度に引き続き、岩手県沿岸で唯一開催されているサーモンイベントである、「岩手大槌サーモン祭り」や「三陸大槌町郷土芸能かがり火の舞」など町の特産品のPRと地域の伝統行事の活性化を同時に行い、町内外からの誘客を図る。またSNSやウェブサイトを通じた情報発信に併せて、町内関係者と連携しながら、大槌町への誘客を図るイベントを企画していく。



岩手大槌サーモン祭りで大人気のサーモンつかみ取り

【問】台日色紙展「漫画の絆」開催経緯は。

【答】（岡本産業振興課長）
震災からの復旧復興に台湾から支援を頂いた大槌町は、2020年より台湾のホストタウンとなつている縁から、台北市で開催されている漫画展に大槌ブースを設置、支援への感謝をお伝えしている。その繋がりにから令和

5年春に台湾の大使館より日本（東京及び大槌町）で色紙展開催の話があり、今回の開催に至った。

【問】イベント開催に伴う情報発信の媒体とその効果は。

【答】（岡本産業振興課長）
イベントの規模により情報発信の媒体は異なるが、基本的にはSNSで

の発信が広く短時間での情報発信ができる。岩手大槌サーモン祭りではラジオでのCM枠を通じて周知を行った。このCM発信は、県内外の多くの方々から「聞いたよ」と反応があり、効果の高さが実感できた。商業販売イベントは地元新聞の広告掲載を利用し、購買の促進に繋がった。

【問】町の文化・芸術などを活用したイベントの将来像は。

【答】（岡本産業振興課長）
町では交流人口の拡大を念頭にイベントを開催しているが、大槌町の観光資源である郷土芸能、アニメ等はまだまだ多くの方々に認知されてはいない。町内外の人達への見せ方を考えながら、大槌町の魅力発信するイベントを企画、町内外で実施していきたい。



多くの感動の声が寄せられた台日色紙展「漫画の絆」

津波時の城山への車避難見込台数は

町方地区の避難行動要支援者57名を想定



議員 山美恵子 澤



津波での車避難について

【問】城山の駐車場には車が何台停められるのか。

【答】（平野町長）
84台である。

【問】戦没者慰霊碑より上には何台停められるのか。
津波の際は開放するのか。

【答】（平野町長）
計18台で、常時開放している。

【問】城山の駐車場が満車になった場合、役場庁舎駐車場に誘導するのか。

【答】（平野町長）

役場庁舎駐車場は浸水想定域内にあるので誘導しない。



リサイクルセンター隣仮設住宅跡地

【問】「旧金沢小学校」と「リサイクルセンター隣」には何台駐車できるのか。

【答】（平野町長）
それぞれ約200〜300台を想定している。

【問】津波発生時、何台ほどが車避難すると見込んでいるのか。

【答】（平野町長）
中央公民館・城山公園体育館には、町方地区の避難行動要支援者57名。旧金沢小学校とリサイクルセンター隣には、ペットと避難する方、約600台を想定。

【問】大槌川・小槌川上流に車避難させれば町中心部での渋滞を防げるといいますが、シミュレーションはしたのか。

【答】（平野町長）
シミュレーションはしていません。中央公民館・城山体育館への車避難は避

難行動要支援者に限る運用としており、それ以外の方は大槌川・小槌川上流へ向かっていただく。

【問】ペット同伴の避難所は旧金沢小学校だが、町内で飼われている犬の数と受け入れ態勢は。

【答】（平野町長）
本年10月末時点で599頭が登録。ファミリールーム、アルファ化米、ペットの餌、保存水、ペットシートなどを備蓄している。



旧金沢小学校

震災伝承について

【問】語り部育成は難しいとあるが、来年度以降はやらないということか。

【答】（協働地域づくり推進課長）
まだまだ課題があるため、語り部育成はまだできる段階ではないと捉えている。

【問】町が民間に作らせた「震災語り部育成テキスト」は、町の震災記録誌を丸写ししたような作りになっていた。今回作成する「教員向けテキスト」もそうなるのであれば、それに数百万円もかけるのはどうかと思うが。

【答】（協働地域づくり推進課長）
町に初赴任する教員を対象としたテキストで、町が作成する。



議員 康悦 梅東



数年間かけての段階的な使用料改定は

審議会の答申を尊重し検討を進める

上下水道事業について

【問】上水道、下水道の公営企業の収支は、町の一般会計からの繰り入れがなければ成り立たず、現状のままでは今後ますます一般会計からの繰り入れ額が増加し、町の財政運営が厳しくなり、結果、町民の方々の望む行政運営に支障が生じる可能性が大きくなること予想される。改定が差し迫るなか、一般会計からの繰り入れの上限をどの程度見込むのか。

【答】（平野町長）

上水道については、特別の事情がない限り基準外繰入はしておらず、引

き続き基準外繰入を要しない事業運営に努めたい。

下水道については、一般会計からの基準外繰入金は昨年度で約1億7,000万円であり、経費削減し繰入金の縮減に努める。

【問】これまで10年間の基準外繰入額の総額は。

【答】（平野町長）

上水道は旧簡易水道の町債元利償還金などで約2億5,730万円、下水道事業は収支均衡を図るための補填財源などで約10億5,565万円である。

【問】震災後、供用不能となった施設等の企業債償還の現状は。



約30年ぶりの料金改定が予定されている町水道

【答】（平野町長）既に借入している部分から供用不能となったものを特定することは困難であるが、被災した施設で災害復旧に要した企業債の本年度末の見込み額は、上水道の償還残高が約3億3,024万円、下水道の償還残高は約13億4,313万円である。

【問】段階的な使用料金等の改定は。

【答】（平野町長）

大槌町上下水道料金等審議会の答申を尊重し検討を進める。

【問】第1次産業（農業・漁業）の支援について

【答】（平野町長）

昨今の資材や燃料費などの価格の高止まりは、生産者の経営を圧迫し、個人の努力では限界となりつつある。生産現場の現状を今一度確認し、今必要な支援策を検討し実施すべきと考

【答】（平野町長）

昨年度は物価高騰などの影響を受けている農業者及び漁業者を支援するため、地方創生臨時交付金を活用し、延べ件数196件、総額6,615,000円を交付した。本年度は花巻農協と連携した営農継続支援対策等を実施した。今後、

も継続して、農協、森林組合、漁協及び県と連携し、町も直接生産現場に赴き、情報収集を継続し、必要に応じて適切な支援策を検討していく。



肉用牛農家の様子

鹿や猪の捕獲に懸賞金を

懸賞金の考えはないが、捕獲体制強化する

鳥獣被害対策について

【問】熊の出没は、ブナの実などの不作との話もあるが、春先から出没するのは別の要因があると考え。冬眠しない鹿、猪が増殖し、冬季間には植物の根を掘り食べることで、熊の餌となるものが減少している。冬の猟期においても頭数調整のために、捕獲懸賞金制度を創設してはどうか。

【答】（平野町長）

岩手県で個体数調整事業を実施しており、ハンターに報償費が支払われているため、町独自の捕獲懸賞金の創設は考えていない。



あべ しゅん さく
阿部 俊作 議員



鹿食害による山肌

【問】生ごみの再資源化や野生動物の隠れ家となるような場所の草刈り等について町の見解は。

【答】（平野町長）

生ごみの管理、弁当の空やジュース缶の投げ捨てへの対応については、毎年4月にリサイクルセンターの職員らで不法投棄のパトロールを実施し、回収している。また、生ごみ処理容器等購入設置補助金を創設して各家庭で燃えるごみの減量化、再資源化が行えるよう支援を進めている。草刈りについても適宜実施している。



鹿食害による道路側面

通学路の街灯について

【問】通学路の街灯について、改善されたと認識していたが、まだ暗い箇所があるため更に照明が必要と考えるが見解は。

【答】（松橋教育長）

町教育委員会では、学校、PTA、地元自治会、警察、道路管理者等と連携して、通学路の合同点検を実施し、安全対策に取り組んでいる。本年度中には薬王堂付近から安渡ランプ付近までの間に、街路灯や防犯灯を設置する予定であり、今後も引き続き児童生徒が安全に通学できるよう乗越道路頂上付近までについても順次設置したいと考えている。

仮置きしている石碑群について尋ねてきたが、進捗状況を伺う。

【答】（平野町長）

町で管理している震災遺構はない。赤浜地区においては、昨年度に大槌町震災ARアプリケーションを開発し、旧民宿あかぶ跡地にて使用可能となっている。今後さらにも周知を図り、活用を図っていく。

【答】（松橋教育長）

津波により被災し、安渡地内に仮置きしている石碑については、複数の関係者から聞き取りを行い、御意向を伺ってきたが、今後の管理方法や設置場所など、結論には至っていない。地区の関係者や関係課と連携し、地区内への移設設置に向けて、震災前にあつた元の場所になるべく近づけられるように、具体的な移設候補場所なども示しながら協議を進めていく。

歴史・文化について

【問】今まで何度か赤浜の旧民宿「あかぶ」跡地の震災遺構としての取扱いについて、津波により被災し、安渡の惣川に



きくちただひこ 議員
菊池忠彦



地域おこし協力隊員の任期終了後は

町に定着できるとサポートする

地域防災計画について

【問】町の防災計画にも定めている、災害時の情報収集・伝達体制の具体的な内容について問う。

【答】（平野町長）

町、消防、県、釜石海上保安部、南三陸沿岸国道事務所、陸上自衛隊、電気通信関係各社等において、災害時にそれぞれが収集する情報をあらかじめ定めており、各機関において収集した情報の伝達について、内容別に伝達経路を定めている。

なお、関係機関との情報伝達訓練等を定期的に実施し、情報伝達体制を構築している。

【問】共助に対する取り組みの一つでもある、各地区の自主防災組織の現状を問う。

【答】（平野町長）

町内に自治会・町内会・生活連絡会などの組織が28あるうち、12の組織において自主防災組織が結成されている。自主防災組織連絡会において、町の防災行政についてお伝えするとともに、各地区の防災への取り組みなどを紹介することで、地域における防災意識の向上に努めているところである。



自主防災組織連絡会の様子

地域おこし協力隊について

【問】隊員の任期終了後の定住、定着につなげる町の施策を問う。

【答】（平野町長）

定期的に隊員及び受け入れ先事業者とのヒアリングを重ねており、隊員の定住希望の有無や任期終了後も継続して町内事業者に就業する見込みをたて、定住を促している。引き続き、隊員の定着につながるよう、就業環境の向上に向けた取組みを推進していく。

公用車のEV（電気自動車）導入について

【問】国の施策に沿って、公用車としてEV（電気自動車）を導入する自治体

が増加している。当町でも環境への負担軽減、経費削減を念頭に、今後公用車の更新にあたり、EV車導入を検討すべきと考えるが、当局の見解は。

【答】（平野町長）

電気自動車の公用車への導入は、充電インフラの普及が進んでいないこと、車両価格がガソリン車と比較して高額であり、充電設備等の付帯的な整備も必要となるため、現在のところ導入には至っていない。しかしながら、町としても二酸化炭素排出量の削減、災害時の電力供給機能といった観点から優れた車両であると認識していることから、今後電気自動車の更新も視野に入れ検討していく。

より良い議会だよりを目指して

～町村議会広報担当者研修会へ参加～

去る、令和5年11月9日～10日に開催された町村議会広報担当者研修会へ議会広報特別委員会の委員が参加しました。

この研修は、議会広報紙の果たす役割の必要性に鑑み、町村議会広報紙の編集技術及び担当者の資質向上に資することを目的として毎年開催されています。

本研修会は、議会広報サポーターの芳野氏の講演のほか、議会広報クリニックに事前応募した各町村の議会広報の講評について情報共有を行いました。

当町の議会だより第168号(令和5年8月5日発行)についても講評をいただきました。全体的に記事を詰め込みすぎている、見出しの付け方に工夫が必要など、改善に向けた意見をいただいた一方で、審議した議案について主な内容説明があるのは適切との評価もいただきました。

本研修会で学んだことを少しずつではありますが、今後の議会だよりの編集に生かしてまいります。そして皆さまに見やすく、手に取ってもらえる議会だよりをめざしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



県内町村議会広報担当者約90名が参加した本研修会



表紙写真の紹介



本号の表紙の写真は、MOMIJI株式会社さんによる新山での狩猟の様子です。普段の仕事内容について代表取締役社長の兼澤さんにお話を伺いました。

Q 主にどのような仕事をしているのですか。

A 捕獲された鹿を「価値のあるもの」として活用できるように様々な活動に取り組んでおります。

食肉販売はもちろんのこと、野生鳥獣による被害、いわゆる「害獣問題」を解決するためのハンター育成や、ジビエを通じて命を学ぶ「大槌ジビエツアーズ」など、さまざまな方向から大槌町を盛り上げる事業を行っております。



人気の大槌鹿モモ肉

MOMIJI株式会社の皆さん、取材を快くお引き受けいただき、本当にありがとうございます。更なる発展を期待しています！



昨年竣工した新工場

Q 今年はどんなことに取り組みたいですか？

A 昨年4月の新工場の稼働とスタッフの増員により、自社加工品の開発にも力を入れることが出来たので、更なる商品開発を行いたいですね。また、引き続き視察の受け入れや、ジビエ事業者育成、ジビエツアー、自社加工品の開発など、幅広く積極的に行っていきます。

能登半島地震MOMIJI 災害支援キッチンカー活動

令和6年1月5日の夜、令和6年能登半島地震の被災地のために、いち早く支援物資や活動支援金を募り、役場や町民などから集まった多くの支援物資と皆さんの想いを一杯詰め込んだキッチンカーが大槌を出発しました。東日本大震災津波の恩返しとして、同じ日本人として、出来る限りの支援活動をとの思いで、15日まで被災地の避難所等を訪れ、温かいうどんやそば、カレーなどの炊き出し支援を行いました。多くの皆さんに喜んでもらえたとのこと。この支援活動は次回以降も検討しているとのこと、まだまだ先の長い支援活動に皆様方の温かいご協力をお願いいたします。



炊き出し支援の様子

定例会・臨時会議員出欠表

議席番号	議員氏名	12月定例会	
		12/8～14	
		出席	欠席
1	佐々木大作	4	0
2	山崎 充	4	0
3	菊池 忠彦	4	0
5	白澤 良一	4	0
6	佐々木慶一	4	0
7	澤山美恵子	4	0
8	阿部 三平	4	0
9	東梅 守	4	0
10	阿部 俊作	4	0
11	東梅 康悦	4	0
12	芳賀 潤	4	0
13	小松 則明	4	0

町議会を傍聴してみませんか

町議会定例会は、3月、6月、9月、12月の年4回、役場3階の議場で開かれます。

町で今何が課題となっているかなど、議場での議員の活動を実際に見て、知っていただく機会です。傍聴の手続きは簡単ですので、ぜひ傍聴にいらしてください。

また、定例会の様子は「おおちゃんねる」、YouTubeでも視聴いただけます。

● 3月定例会は2月29日(木)開会予定です
(注: 予定は変更される場合があります)

編集後記

▼まずは、1月1日に発生しました令和6年能登半島地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈りいたしますとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

さて、立春とは名ばかりの厳しい残寒が続きます。議会報編集委員一同、本年もよろしくお祈り申し上げます。

皆様に親しまれ、議会に興味を持っていただけたよう、委員一同頑張って試行錯誤してまいります。

昨年はコロナ感染症、インフルエンザ等、大変な年でありました。寒さの戻りですますます冷え込むこともございます。体調を崩さないように気をつけてお過ごしください。

結びに、皆様にとって本年が幸多き一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

議会広報特別委員会

- 委員長 菊池 忠彦
- 副委員長 澤山美恵子
- 委員 東梅 康悦
- 委員 阿部 俊作
- 委員 白澤 良一
- 委員 山崎 充